

平成28年

労働災害の発生状況
(労働者死傷病報告の分析)

管内:足立区・荒川区

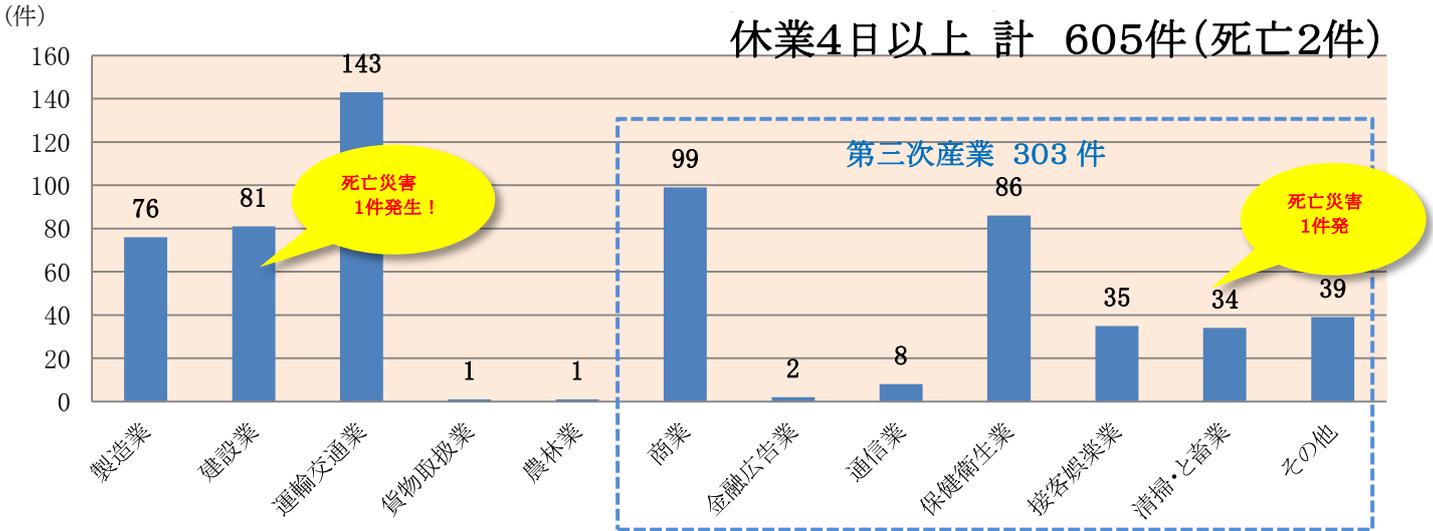


足立労働基準監督署

目次

全業種労働災害発生状況	1
製造業労働災害発生状況	3
建設業労働災害発生状況	5
運輸交通業労働災害発生状況	7
第3次産業労働災害発生状況	9
商業労働災害発生状況	10
保健衛生業労働災害発生状況	11
接客娯楽業労働災害発生状況	12
清掃・と畜業労働災害発生状況	13

平成28年 労働災害発生状況



平成28年に発生した休業4日以上の死傷災害は605件で、前年比で2.1%減少しました。

業種別にみると、運輸交通業が143件(23.6%)と最も多く、次いで商業が99件(16.3%)と続きます。また、死亡災害は、建設業において1件、清掃・と畜業において1件発生しています。

[死亡災害事例]

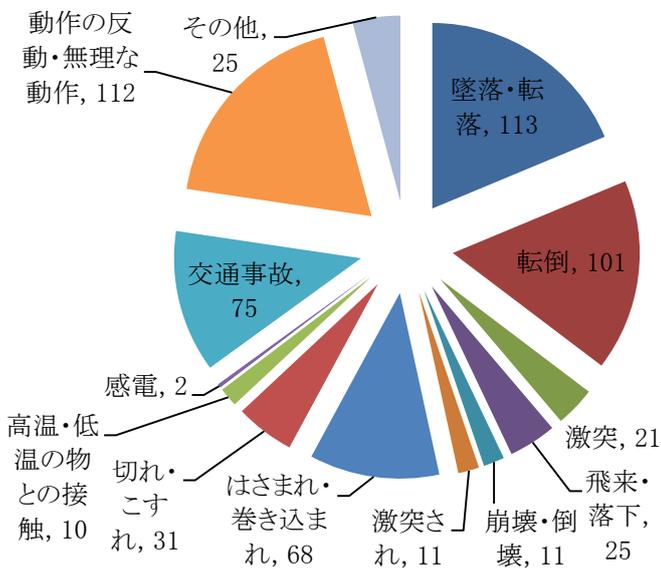
①ゴミ処理場の一般可燃ゴミ焼却炉ろ過式集じん機内部で、蓄積した灰の除去作業を行っていたところ、蓄積した灰が崩壊し被災者が埋もれた。(清掃・と畜業)

②被災者は外壁塗装工事に伴う屋上手すりの塗装作業中、高压電線の引き込み線の充電部に触れたため感電した。(建設業)

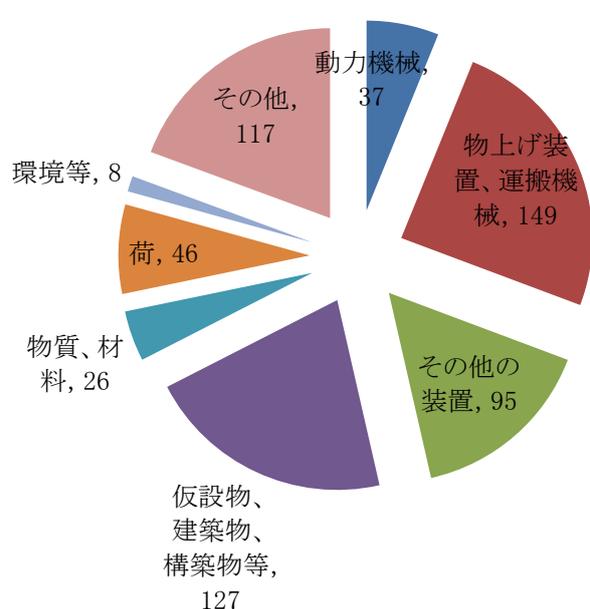
事故の型では、墜落・転落、動作の反動・無理な動作、転倒の順となっています。

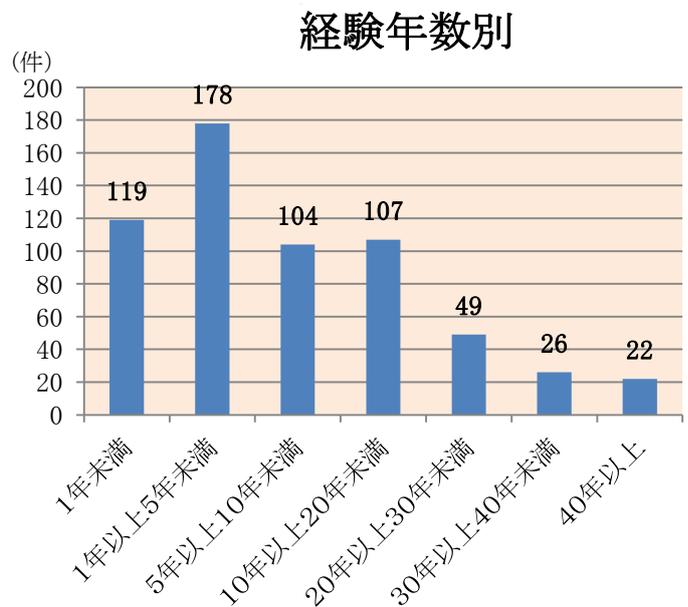
起因物では、物上げ装置・運搬機械(乗用車・バス・トラック・フォークリフトなど)、仮設物・建築物・構築物等(足場・建築物・屋根など)の順となっています。

事故の型別



起因物別

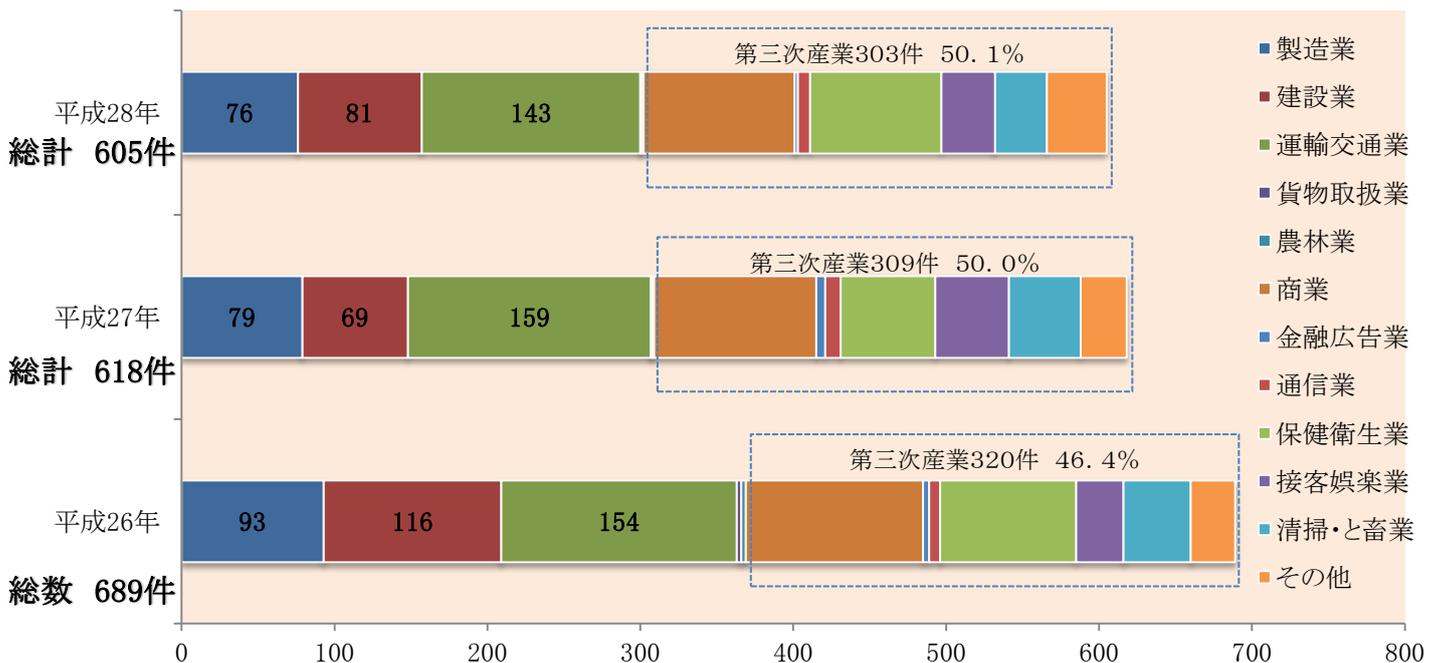




中高年の発生件数が高い

年齢別は、40歳代以上の中高年労働者が434件と全体の71.7%を占めています。
 経験年数別は、5年未満の労働者が297件と全体の49.1%を占めています。

過去3年間の労働災害発生状況

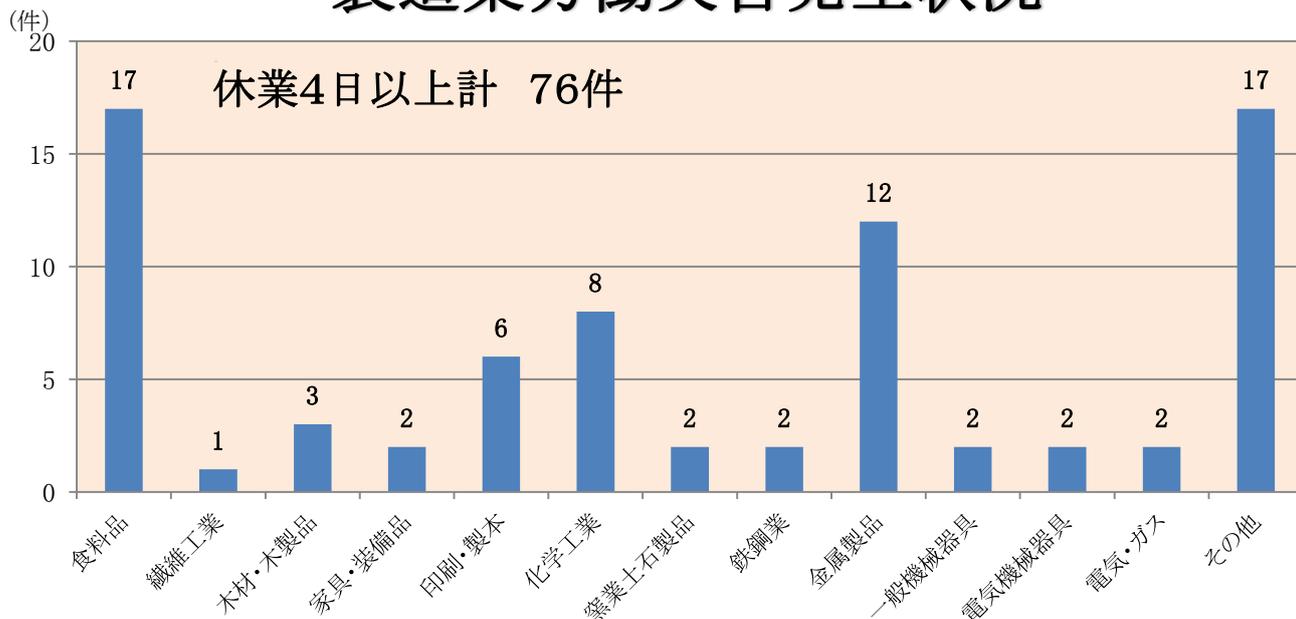


第12次労働災害防止計画(以下「12次防」という。)においては、平成29年までに休業4日以上の災害件数を480件以下とすることを目標としています。平成27年は前年比71件減(10.3%減)の689件でしたが、平成28年は前年比13件減(2.1%減)の689件となりました。

業種別にみると、過去3年間とも運輸交通業が最も多く発生しています。また、建設業は、平成27年に前年より大幅に減少しましたが、平成28年は前年より増加しています。

12次防の目標達成は極めて困難な状況となっていますが、足立署では、引き続き「Safe Work TOKYO」の取組を官民一体となって進め、各業種における災害の減少に向けて積極的に対策を推進することとしています。

製造業労働災害発生状況

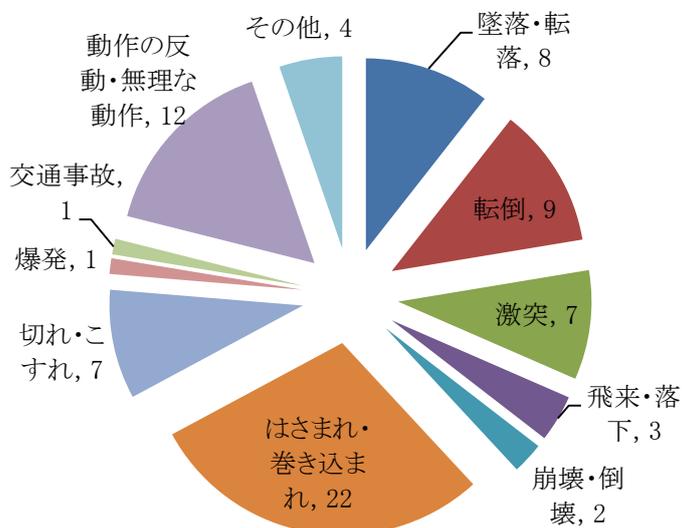


食料品製造業で高い発生件数！！

業種別では、食料品製造業で17件(全体の22.4%)、金属製品製造業で12件(全体の15.8%)と多く発生しています。

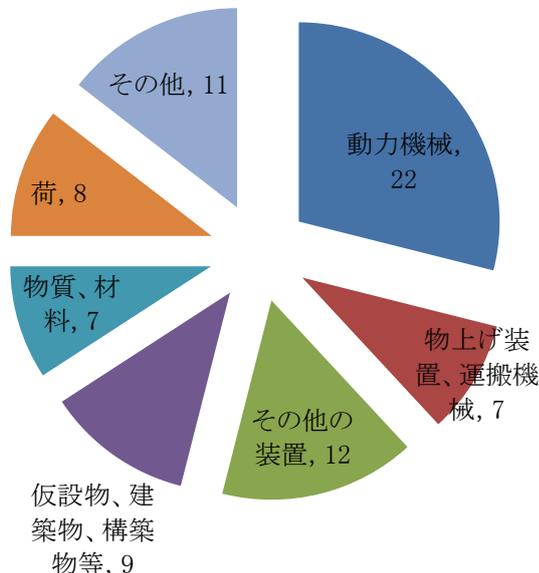
事故の型別

(件)



起因物別

(件)

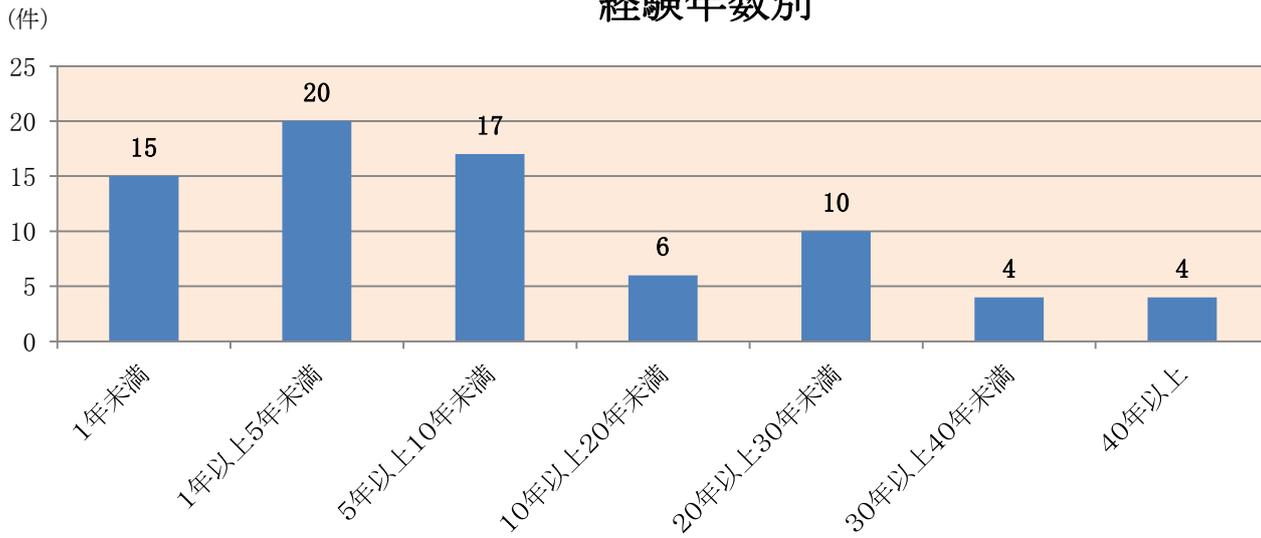


機械による挟まれ災害に注意！！

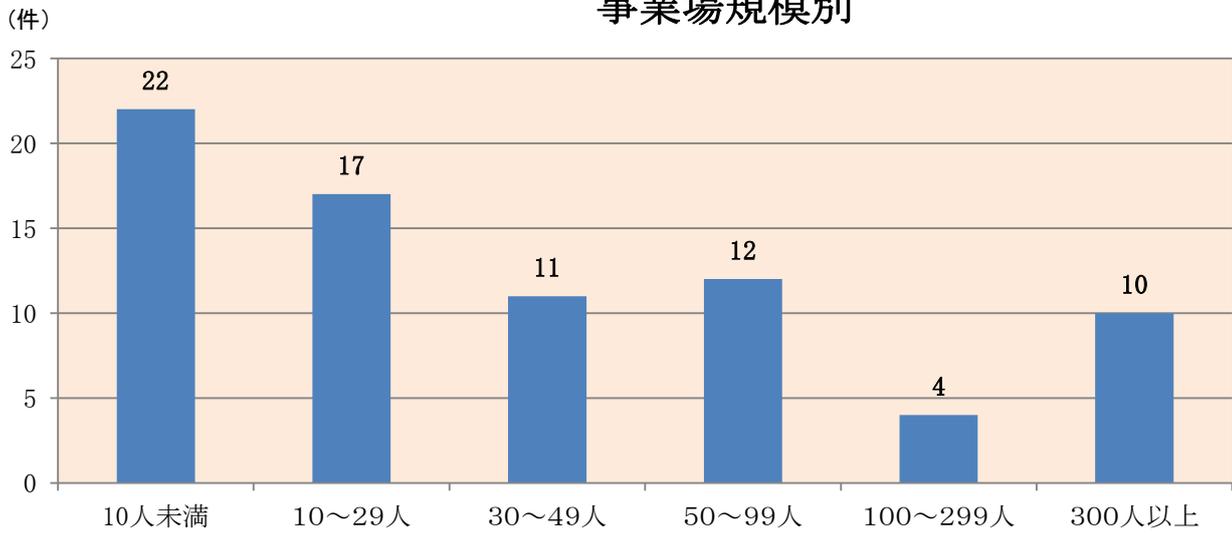
事故の型では、はさまれ・巻き込まれが22件(28.9%)と最も多く、次いで動作の反動・無理な動作(15.8%)、転倒(11.8%)の順となっています。

起因物では、動力機械(プレス・食品加工機械など)が22件(28.9%)と最も多く、その他の装置、仮設物、建築物、構築物等の順となっています。

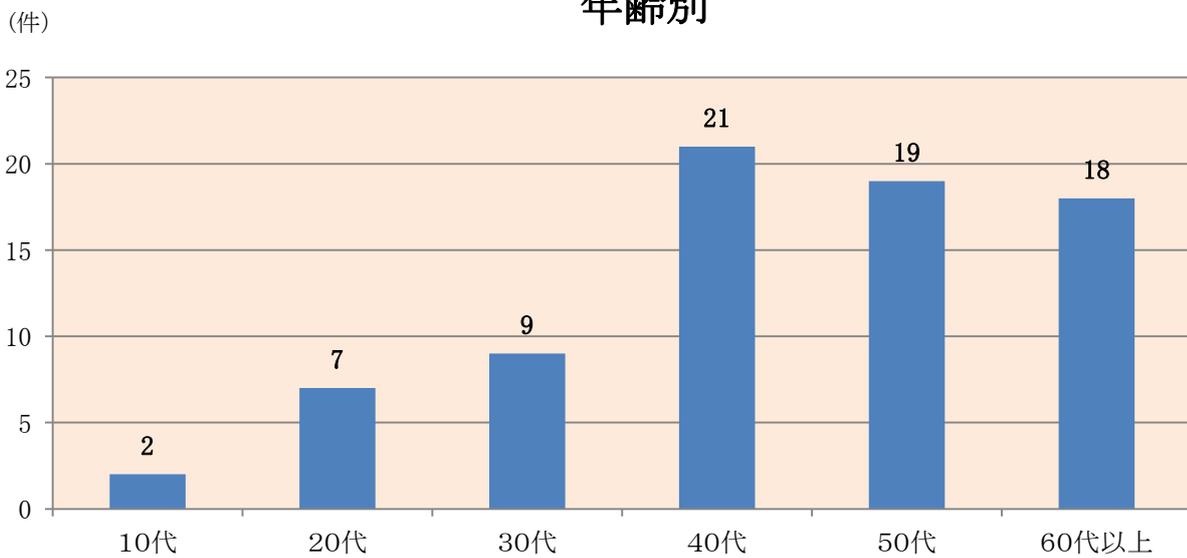
経験年数別



事業場規模別

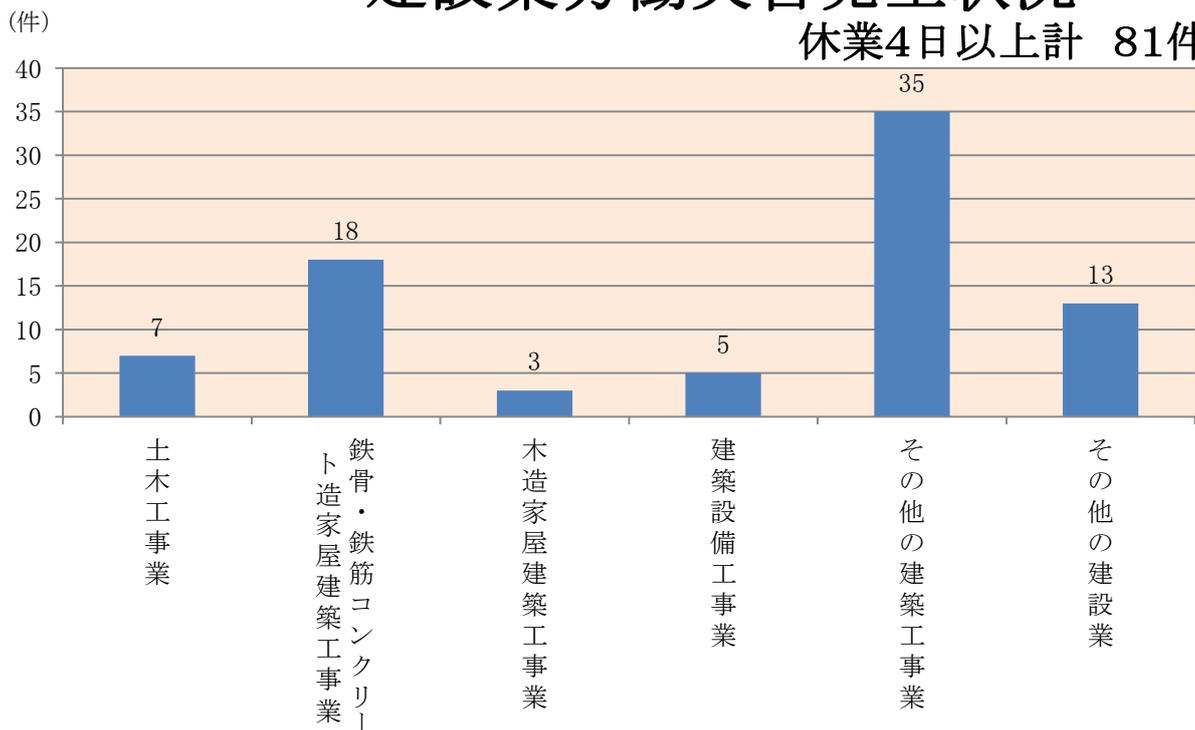


年齢別



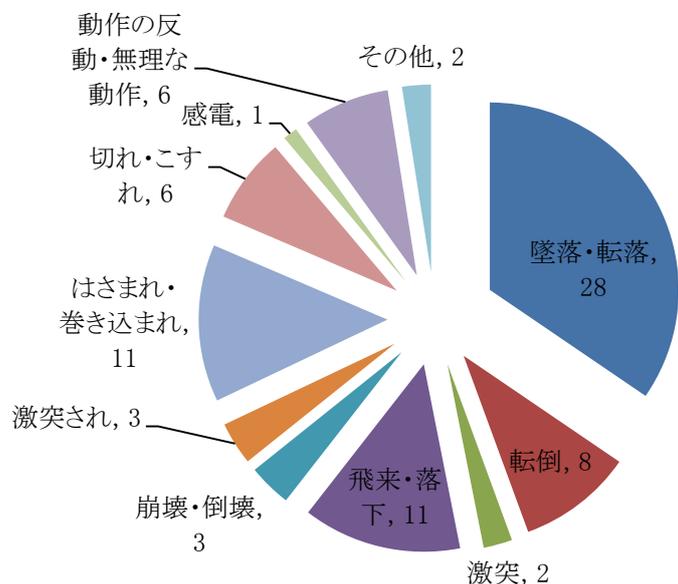
建設業労働災害発生状況

休業4日以上計 81件

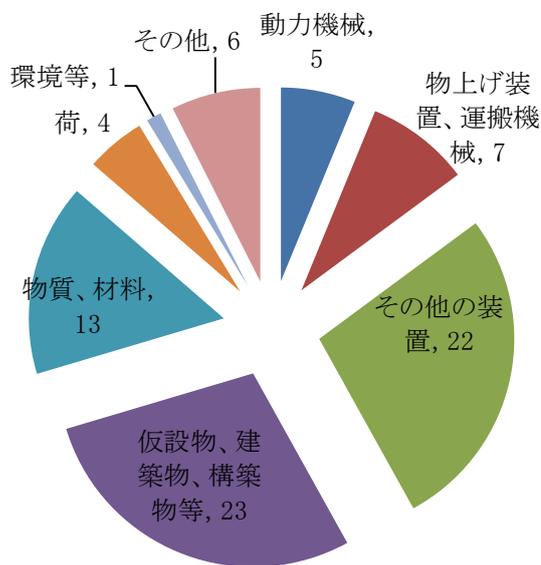


業種別では、その他の建築工事業が35件と全体の43.2%を占めています。

事故の型別 (件)



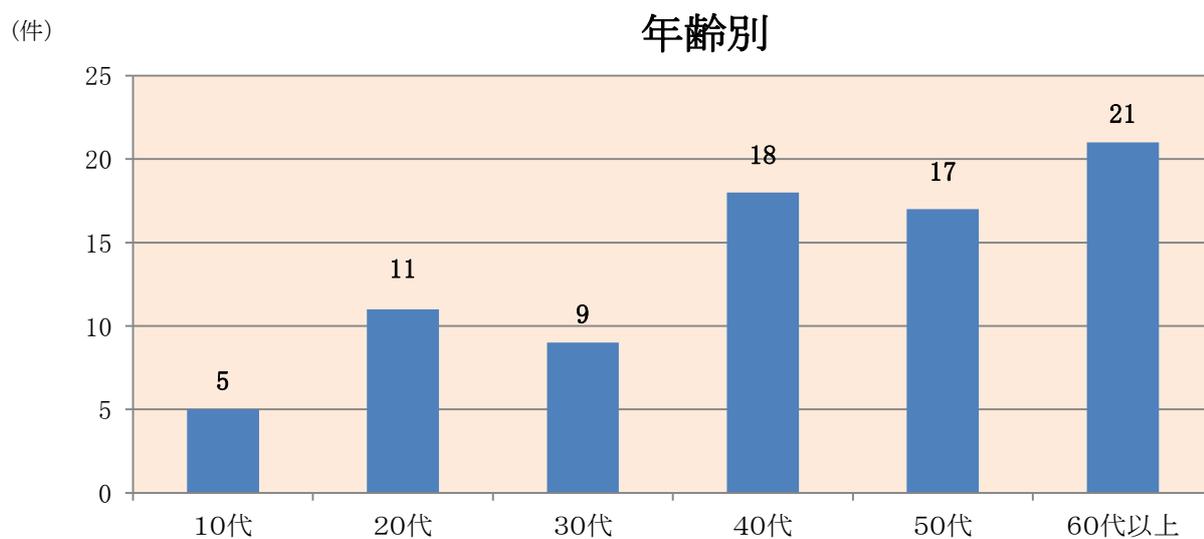
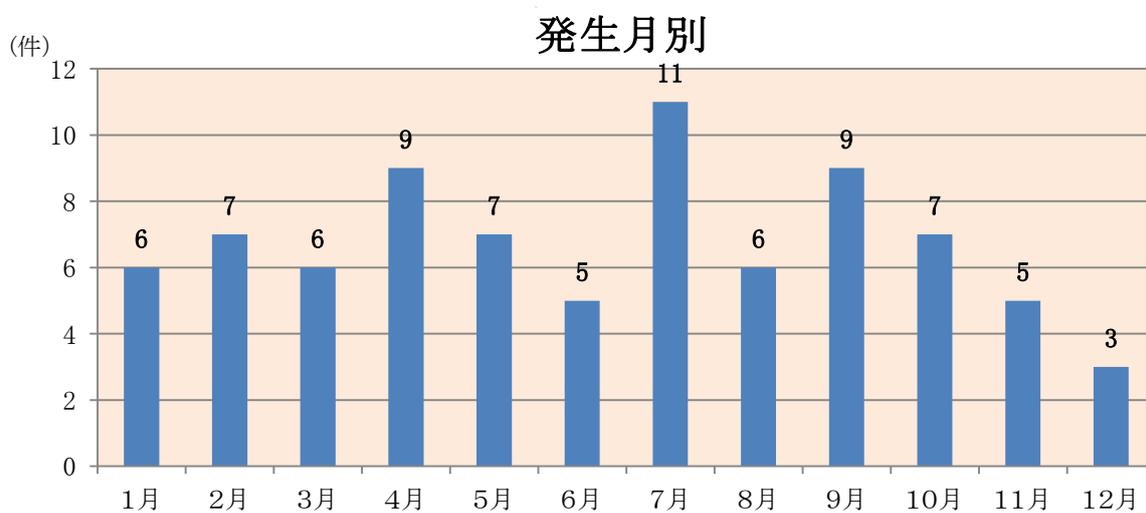
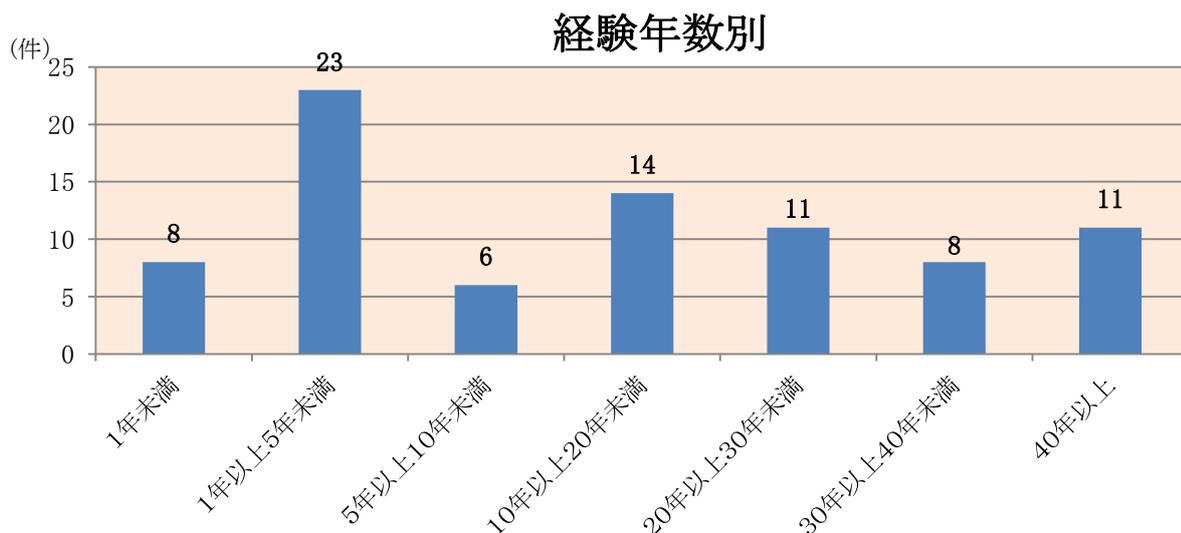
起因物別 (件)



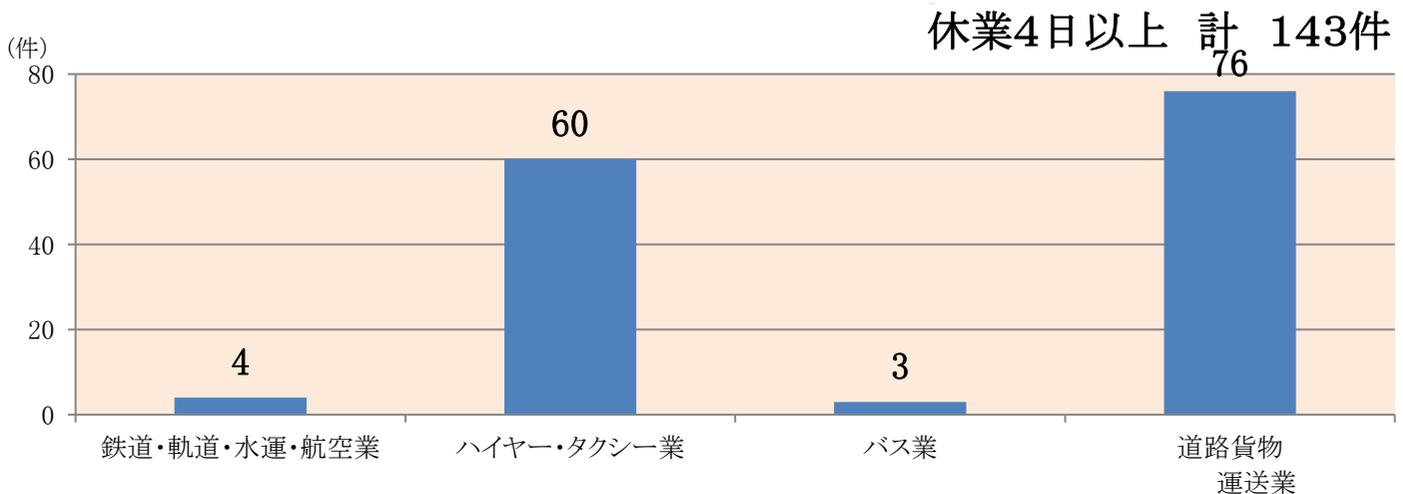
事故の型は、墜落・転落が28件(34.6%)と最も多く、墜落・転落災害防止が最重点であることがいえます。

次いで、飛来・落下11件(13.6%)、はさまれ・巻き込まれ11件(13.6%)となっています。

起因物は、仮設物・建築物・構築物等(足場・建築中の建物・通路など)が23件(28.4%)、その他の装置(手工具、はしご等)が22件(27.2%)と多くを占めています。

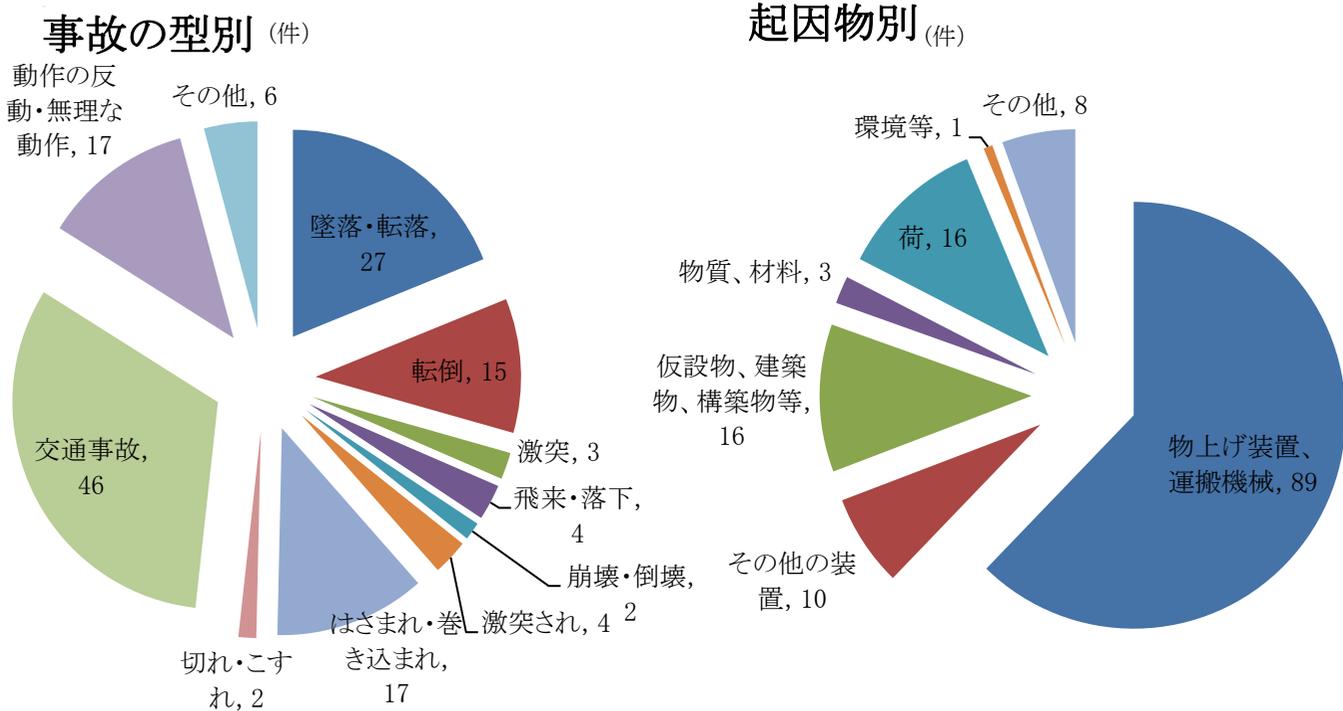


運輸交通業労働災害発生状況



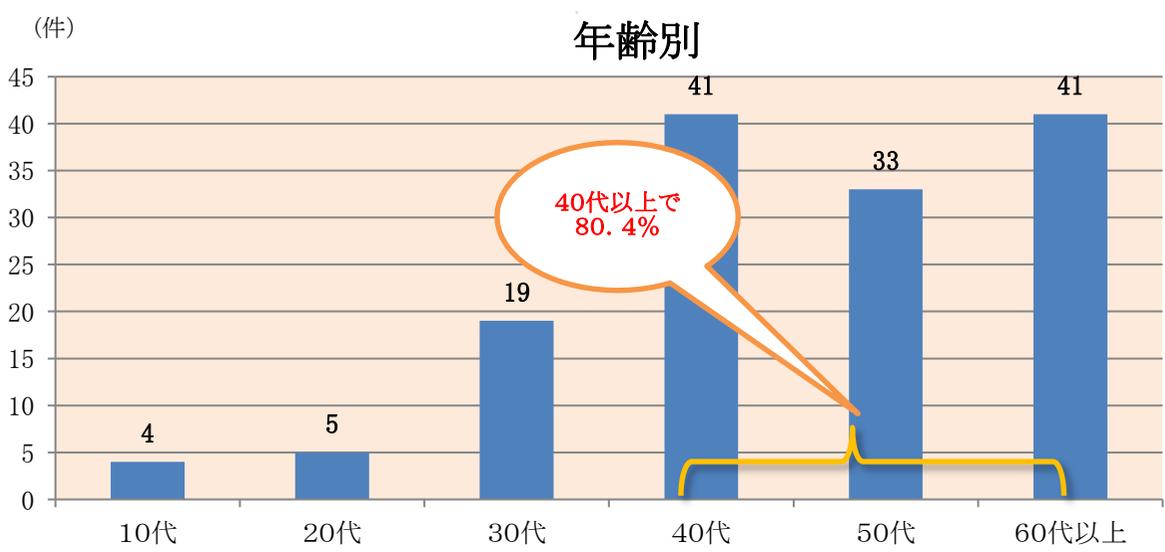
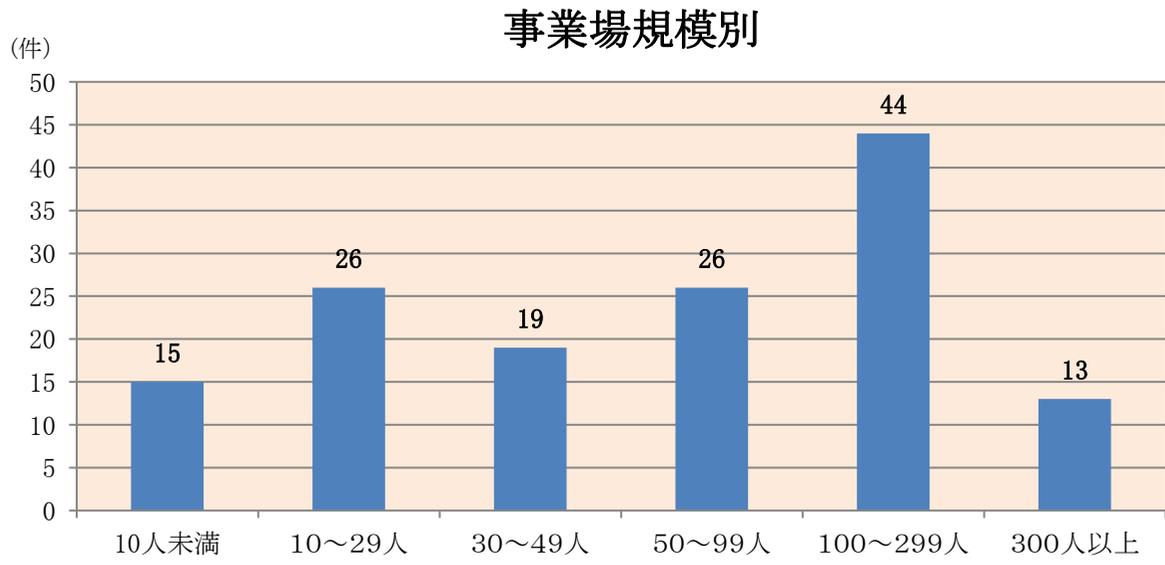
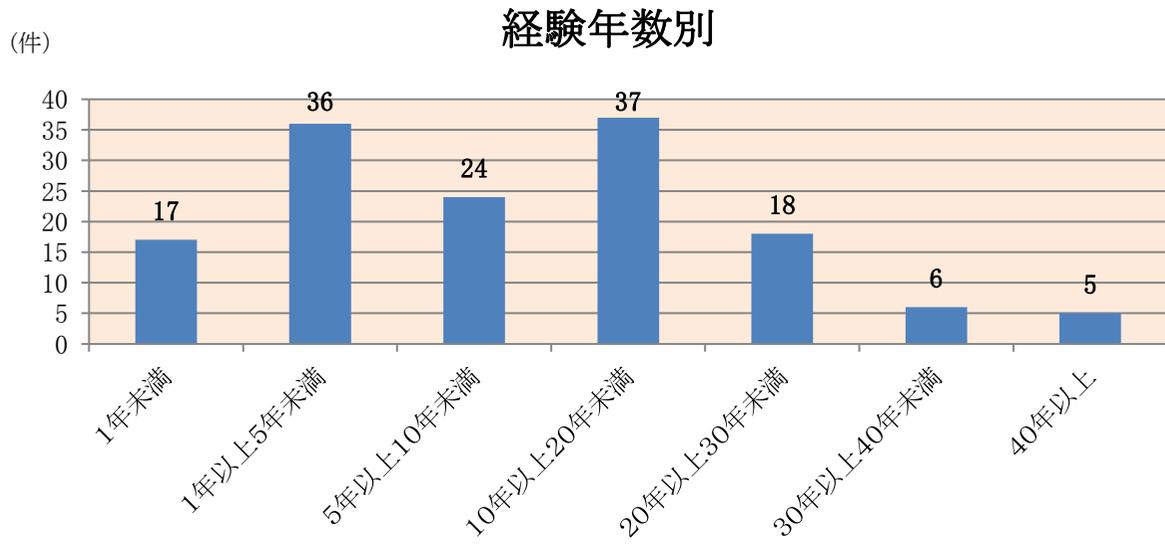
道路貨物運送業、ハイヤー・タクシー業での災害が多発！！

業種別では、道路貨物運送業が76件(53.1%)を占め、次いでハイヤー・タクシー業が60件(42.0%)となっています。

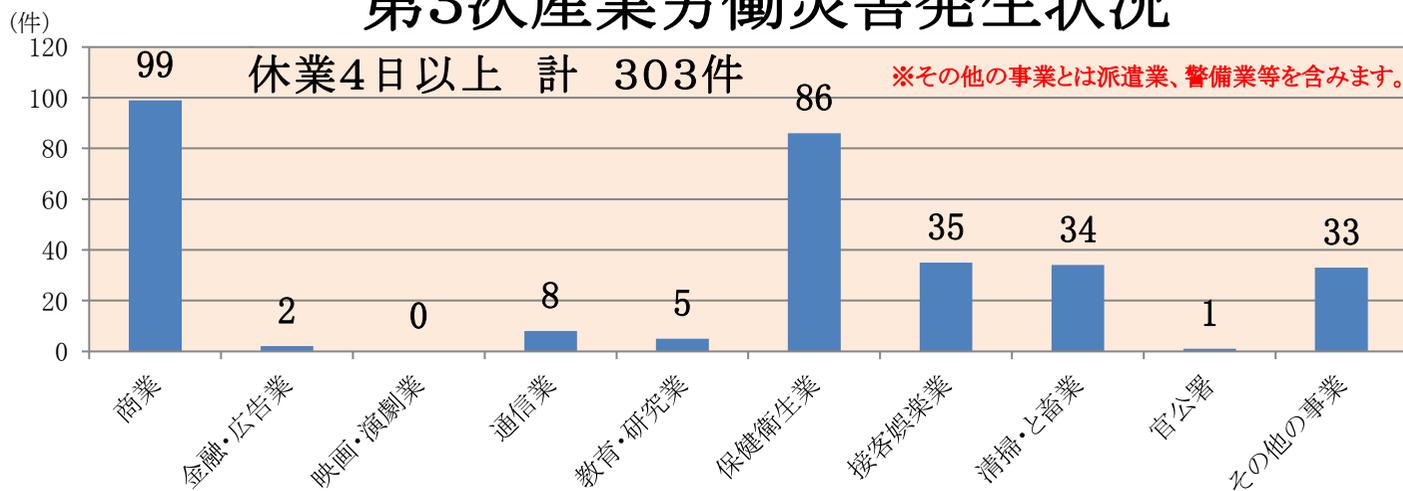


事故の型では、交通事故が46件(32.2%)と最も多く、次いで、墜落・転落27件(18.9%)となっています。腰痛等を含む動作の反動・無理な動作も17件(11.9%)と多く発生しています。

起因物では、物上げ装置・運搬機械(トラック・タクシーなど車両を含む)が89件と全体の62.2%を占め、次いで仮設物、建築物、構築物等(プラットホームや通路等を含む)16件(11.2%)となっています。

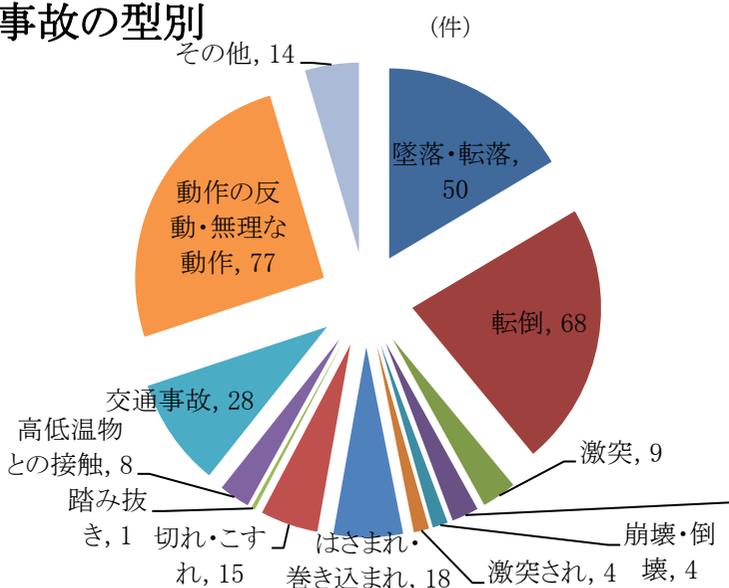


第3次産業労働災害発生状況

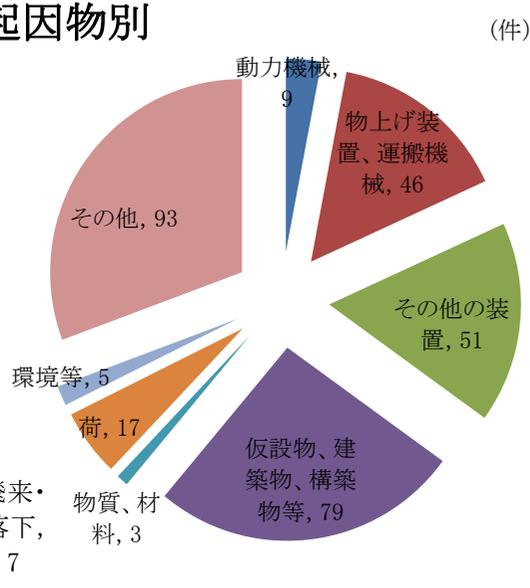


業種別では、商業99件(32.7%)、保健衛生業86件(28.4%)で多く発生しています。

事故の型別



起因物別



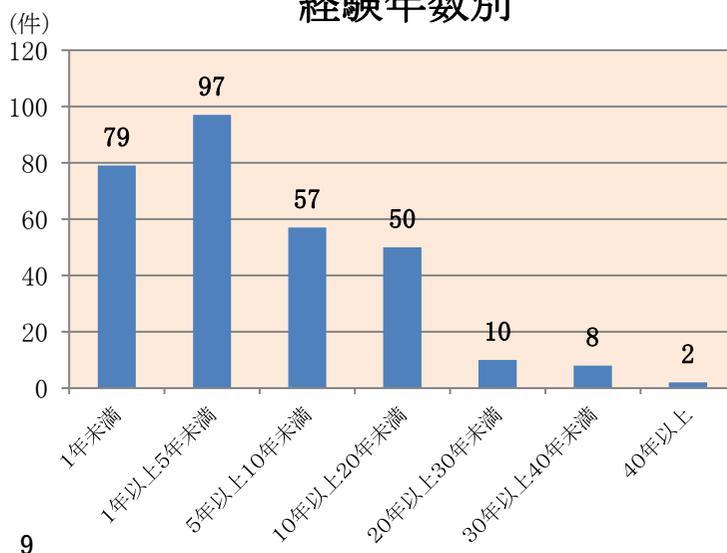
事故の型では、動作の反動・無理な動作が77件(25.4%)と最も多く、次いで転倒68件(22.4%)、墜落・転落50件(16.5%)となっています。

起因物では、その他(対人が起因する腰痛等)が93件(30.6%)と最も多く、次いで仮設物・建築物・構築物

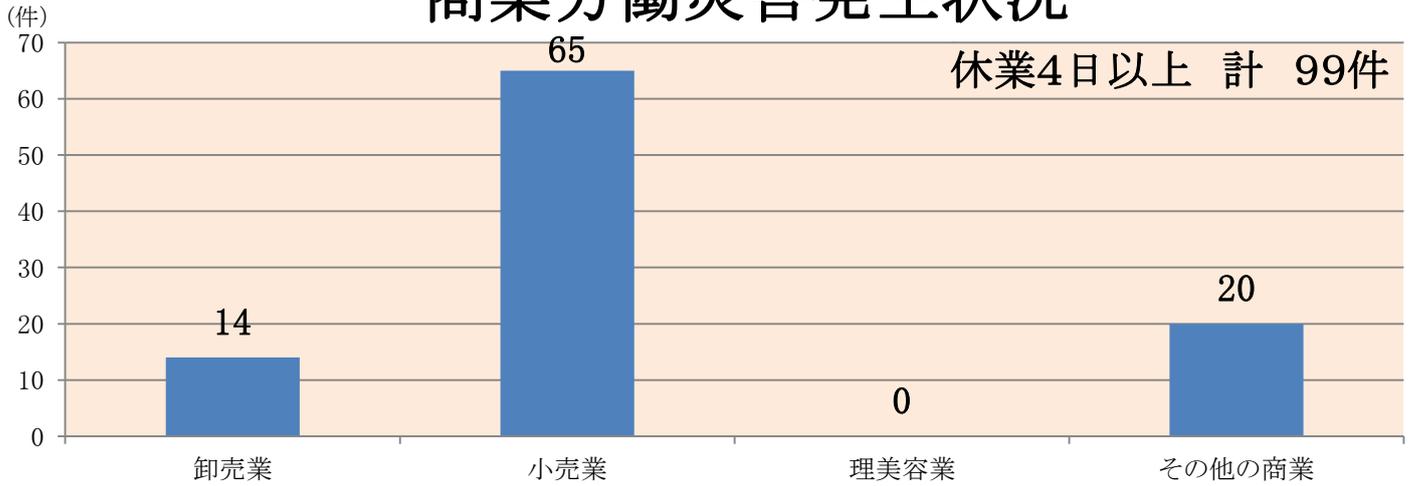
年齢別



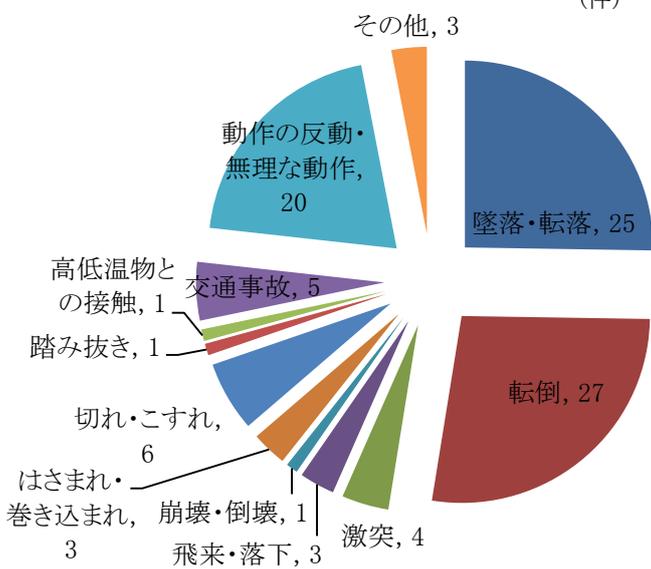
経験年数別



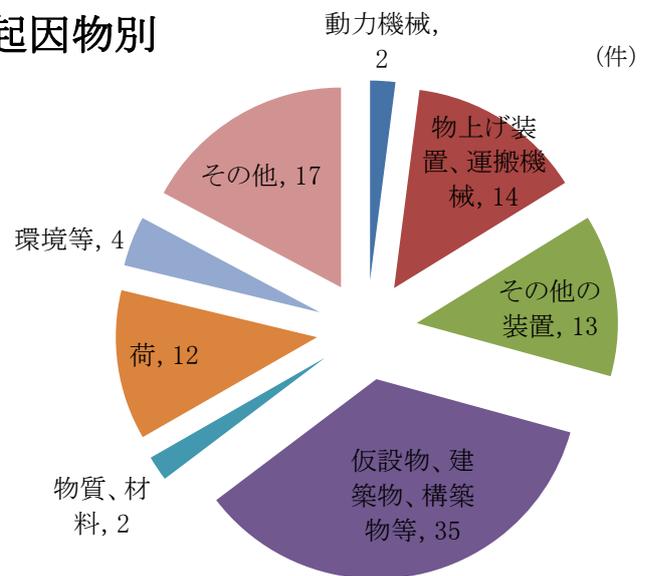
商業労働災害発生状況



事故の型別

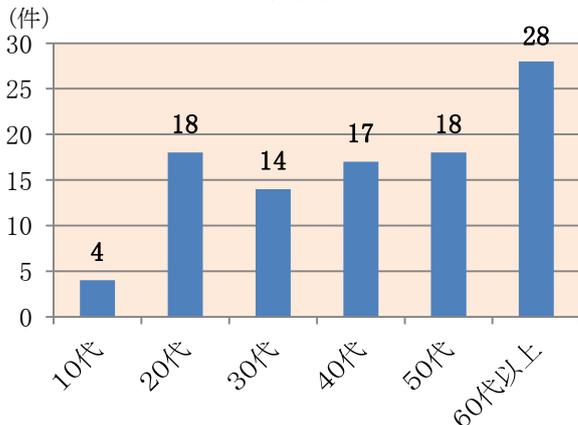


起因物別

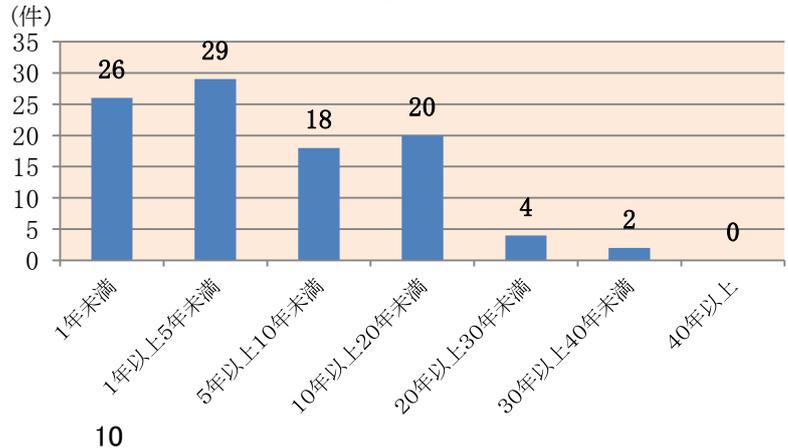


事故の型では、転倒及び墜落・転落で52.5%を占めています。
 起因物では、仮設物・建築物・構築物等(通路・床・階段等)が35件で35.3%を占めています。
 年齢別では、60代以上が28件で28.3%を占めています。
 経験年数別では5年未満の労働者で55件で55.6%を占めています。

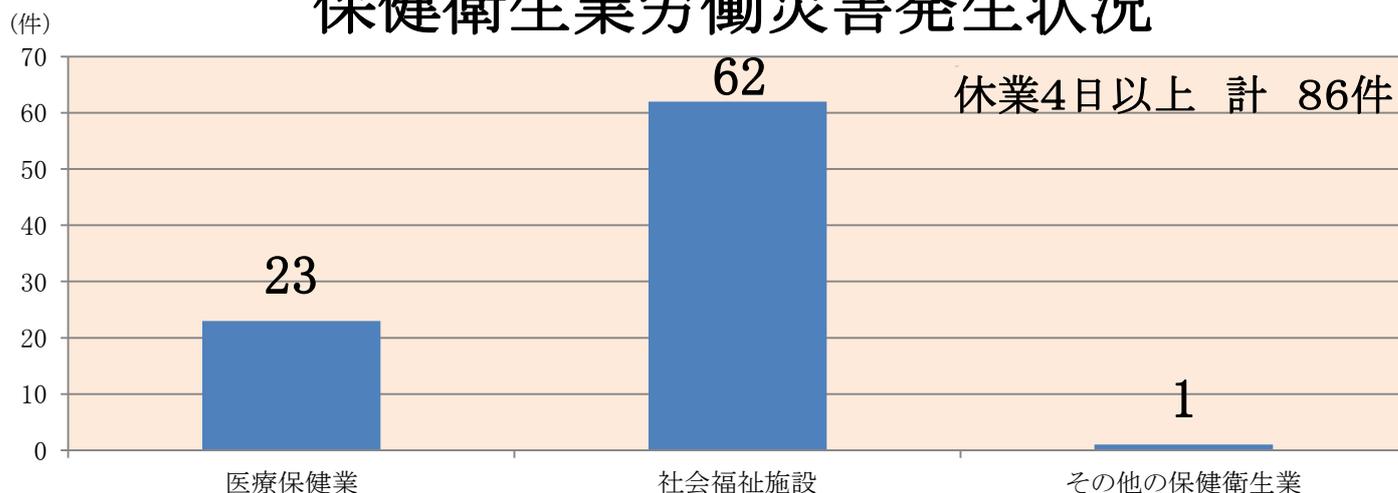
年齢別



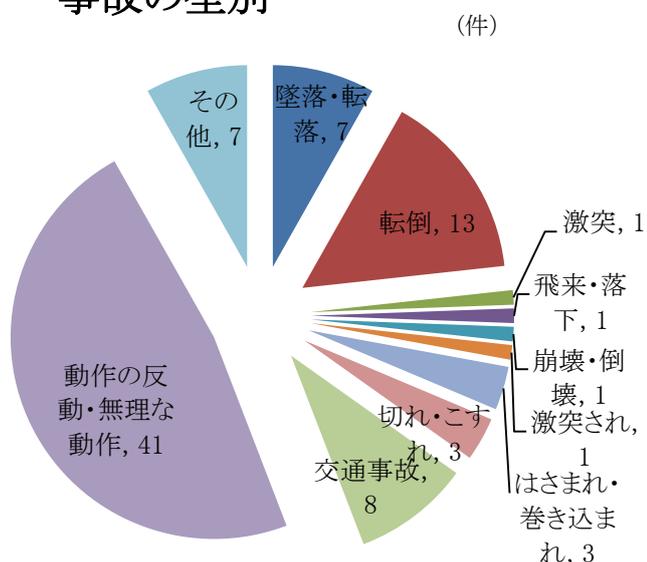
経験年数別



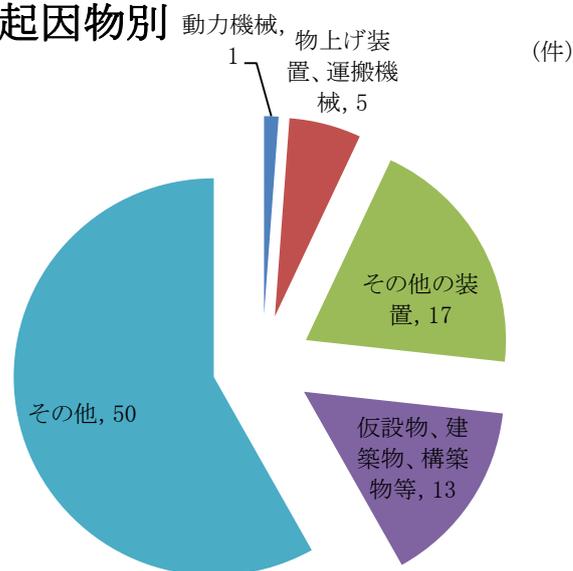
保健衛生業労働災害発生状況



事故の型別



起因物別



事故の型では、動作の反動・無理な動作が41件と全体の47.7%を占め、次いで転倒(15.1%)となっています。

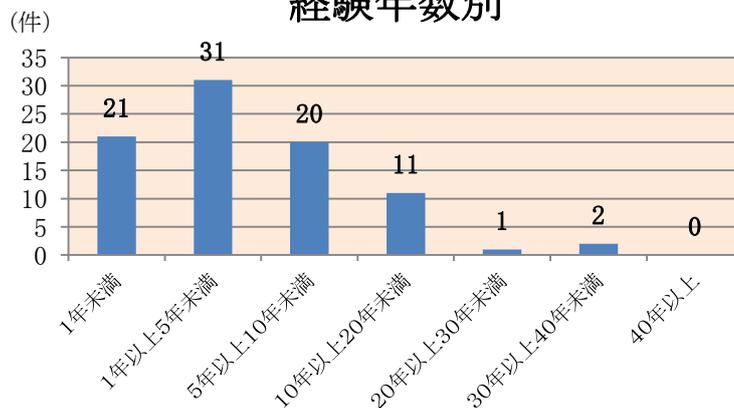
起因物では、その他(要介助者を介助中に発生した場合等、人が起因するもの等をいいます)が50件と全体の58.1%を占め、次いで、その他の装置(介助器具等)、仮設物・建築物・構築物等(通路・床・階段等)となっています。

保健衛生業では、介助作業等における腰痛災害や通路等における転倒災害防止が重点となります。

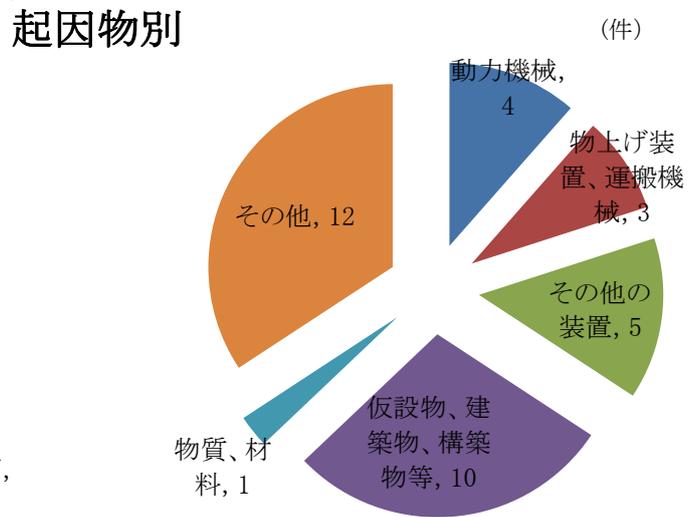
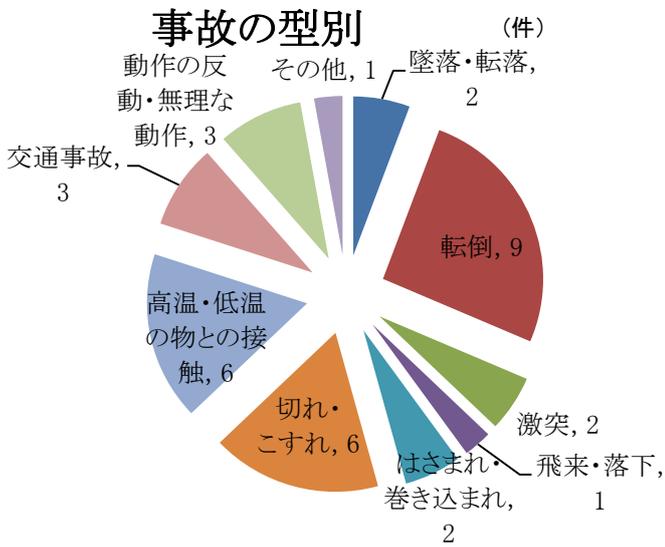
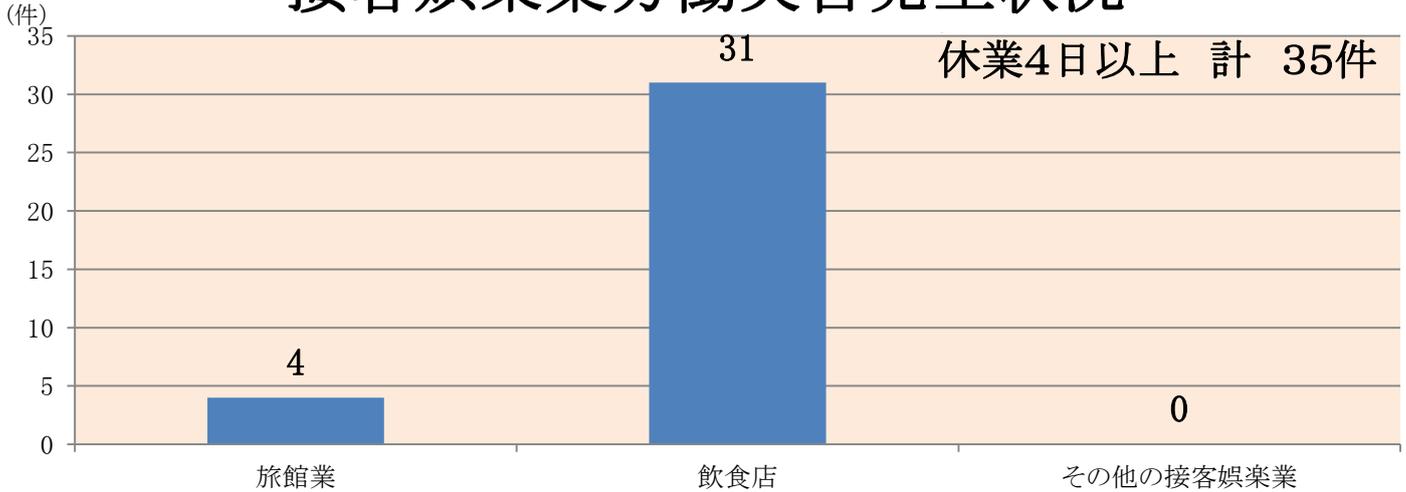
年齢別



経験年数別

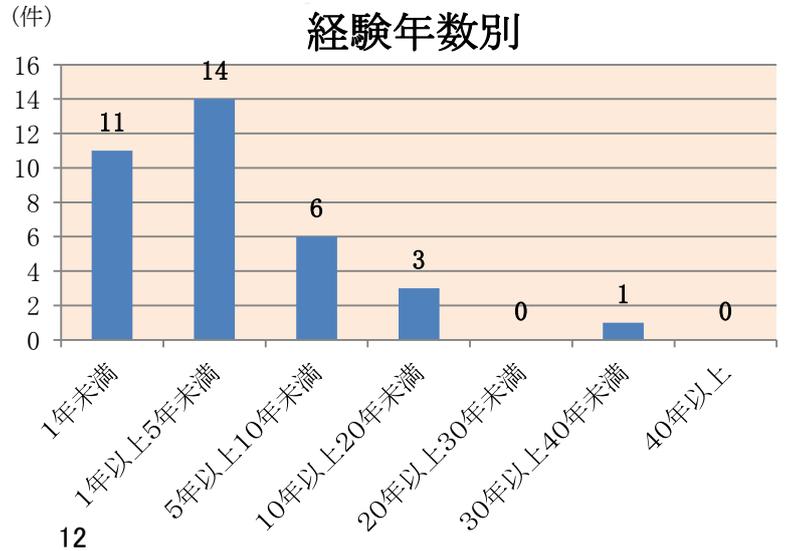
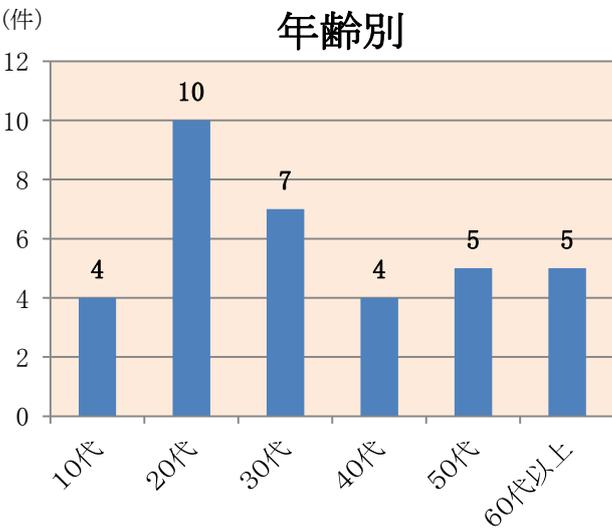


接客娯楽業労働災害発生状況

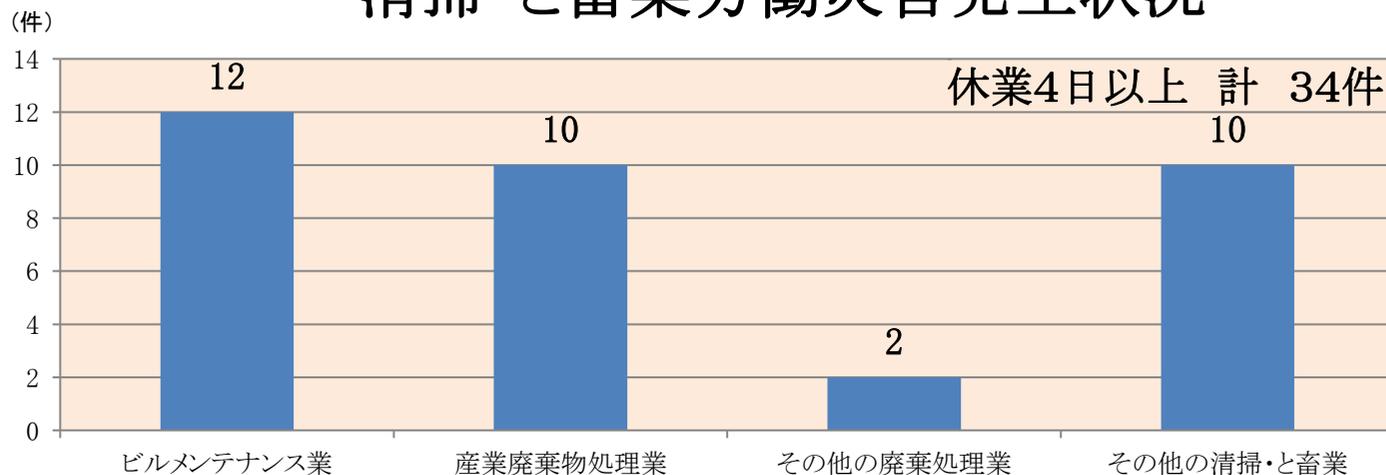


転倒などの行動災害や切傷災害に注意！！

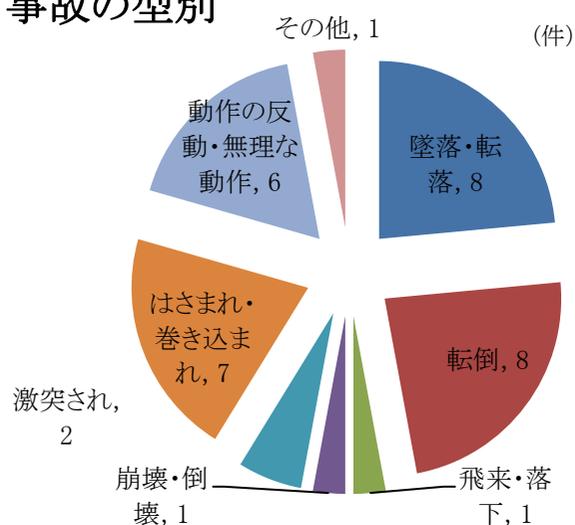
事故の型では、転倒が9件(25.7%)で最も多く、次いで切れ・こすれ(17.1%)、高温・低温の物との接触(17.1%)の順となっています。
 起因物では、その他が12件(34.2%)で最も多く、次いで仮設物・建築物・構築物等(通路・床・階段など)(28.6%)の順となっています。



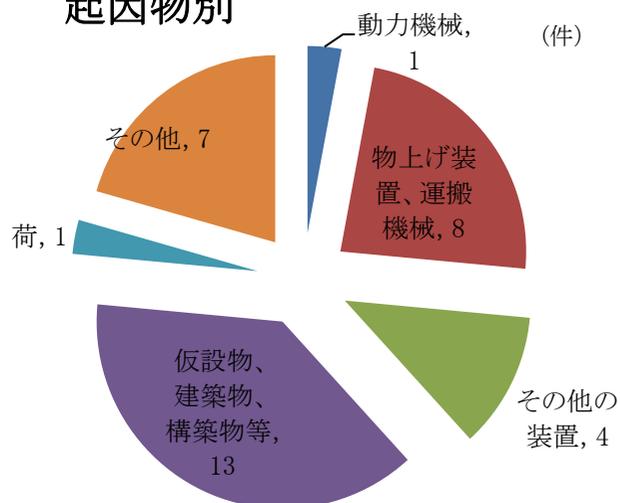
清掃・と畜業労働災害発生状況



事故の型別



起因物別



事故の型では、**墜落・転落及び転倒がそれぞれ8件(23.5%)で最も多く**、次いではさまれ・巻き込まれ、動作の反動・無理な動作(荷を持ち上げた際等の腰痛災害等)となっています。

起因物では、**仮設物・建築物・構築物等(作業面・通路・階段など)が3件(38.2%)で最も多く**、次いで物上げ装置・運搬機械(トラックなど)となっています。

年齢別では**60代以上の被災が多く、38.2%を占めています**。

経験年数別では、**5年未満の発生が55.9%と多く**、経験の浅い労働者が高い割合を占めています。

